

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0590100392 | | |
| 法人名 | 有限会社クラウド | | |
| 事業所名 | グループホーム幸樹 | | |
| 所在地 | 秋田市泉南1丁目4番20号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年9月17日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.akita-longlife.net/evaluation/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 | | |
| 所在地 | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年10月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田市中心部の静かな住宅地の一角で、向かいには公園であるため開放的で暮らしやすい環境にあります。公園への散歩を日課として楽しむ入居者様もいらっしゃいます。
『その人らしさ 想いを大切に、心穏やかに安心して暮らせる支援をします』を理念に掲げ、職員も生活を共にする家族の一員として支援しています。
普段は、新聞を読んだり、テレビを観たり、隣席の方と談笑したりと思ひ思ひの時をゆっくりと過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会長を初めとした地域の方々の心遣いに助けられ、利用者の安心できる暮らしに向けた支援が行われています。職員不足が解消できない状況が続く中で日々変化の見られる利用者の症状に合わせたケアを心がけ、カンファレンスを随時行って利用者支援に繋がっています。機能の低下した利用者が多くなり、一緒にできることが少なくなりました。利用者に関わる時間が増える等のメリットが考えられることから、食材の購入の仕方を変更することも検討しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 47 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 54 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 48 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 55 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 49 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 56 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 50 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 57 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 51 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 58 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 52 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 59 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 53 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員各々が考えた理念の中から、職員全員で一つに決め、事務所と玄関に掲示しています。 理念に沿った支援を実践しています。 | 今年度に入ってから、職員で話し合って新しい理念を策定し、業務の中で実践を心がけています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会から地域行事への参加案内をいただき、可能な範囲で参加させていただいています。また、日常生活において、散歩の時間など地域の方や子供たちと交流が来ています。 | 地域の方の理解に恵まれ、さまざまな場面で協力が得られています。地域の防災訓練に職員が参加する等、可能な範囲で協力しながら地域の一員として交流しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 認知症の方と同居している家族から相談を受けることがあります。認知症の人の理解や支援の方法を伝えるようにしています。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期開催において、サービスの実践事例やヒヤリハット事例を報告し、参加者からの質問に答え、意見をいただき、サービス向上に活かしています。 | 包括職員の他、地域の関係者が多数参加しています。参加者から地域情報を収集し、災害対策にも活発な意見が出され、運営に活かされています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 制度上の質問や諸手続きについて、必要時には相談できています。 | 市担当者とはメールが主な連絡手段ですが、相談事項に対応していただき、良好な関係を築いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 夜間以外は玄関は施錠せず、行動制限等の拘束しないケアに努めています。実践状況、工夫例などについてミーティング時に共有し、職員の理解を深め、自尊心に配慮した身体拘束をしないケア、虐待防止に努めています。 | 毎月行われるミーティングで事例を基に話し合い、職員の理解を深めています。ホームの課題としてスピーチロックの防止に力を入れており、日頃の言葉遣い等を確認しながら実践に努めています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会を通し学ぶ機会を作っています。制度利用が必要となった利用者について、権利擁護センターと連携し、制度の活用ができるよう必要な支援をしています。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族が不安を抱くことのないように、十分説明を行い理解・納得いただいています。 | | |
| 9 | (6) | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている | 利用料の支払いに毎月訪れる家族の割合が多く、その際に日常の様子などを伝え、家族からの意見を聞き、運営に反映させるようにしています。 | 家族が支払いに訪れる時が家族と話しができる良い機会にもなっています。居室担当職員が家族と連絡をとっていることもあり、意見、要望には適切に対応できるように取り組んでいます。 | |
| 10 | (7) | ○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている | 定期的なミーティングや面談、日々の関わりを通して、職員の意見や要望を聞き、それらを反映できるようにしています。 | 職員の意見は管理者を通じて法人本部に伝えていきます。介護備品等の必要な物の購入等が行われ、業務改善に繋がっています。 | |
| 11 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会の会員で定期的に研修会に参加しています。意見交換を通して、同業者との交流ができており、サービスの質の向上に繋がっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症により要望や不安を表現できない方もいますが、表情や会話から思いをくみ取るように努め、入居後も安心して生活していただく事ができるような関係づくりに努めています。 | | |
| 13 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人・家族の望むサービス提供を目標に思いや不安に耳を傾け、より良い関係を築けるように努めています。 | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の自立性や尊厳を第一に考え、寄り添った対応を心掛けています。 孤独感や疎外感を感じさせないように日常の何気ない会話を大切に暮らしを共にする者同士の関係を築いています。 | | |
| 15 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月のお便りで1カ月の生活状況を家族にお知らせしています。家族と共に本人を支えていく支援体制を築くことが出来ています。 | | |
| 16 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている | 感染予防対策を踏まえた上での面会を実施しています。家族や知人との交流が途切れないような支援体制が出来ています。 | 電話や食事、通院同行等、家族の協力を得て支援しています。帰省時に一緒に過ごす家族もおり、訪問理容の方とは馴染みの間柄になっています。 | |
| 17 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が楽しく関わって過ごすことが出来るよう、日常会話に気を配り支援しています。また、お手伝いやレクリエーション活動を通して利用者同士が支え合い、協力し合えるように支援しています。 | | |
| 18 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された利用者の家族から近況の連絡が来ます。相談等には誠実に対応するように努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話や生活の様子から本人の希望や意向を把握できるように努めています。職員の気づきはカンファレンスで取り上げ本人にとって最善の対応が出来るように努めています。 | 日々の関わりの中で気づいたことを職員間で情報交換しながら話し合い、支援に繋がっています。 | |
| 20 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの暮らしを継続できるように、入居に至るまでのサービス利用の経緯や生活歴などの把握に努めています。 | | |
| 21 | (10) | ○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している | 利用者の変化や思いを見逃すことのないようにし日々の関わりを通して気づいたことを職員・関係者間で情報共有し、現状に即した介護計画を作成しています。 | 介護計画の実践状況が確認できるよう毎日記録しており、毎月、及び随時カンファレンスを行って現状に即した介護計画となるよう話し合っています。 | |
| 22 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている | 日々、利用者の状態を観察し、ケアの実践内容を記録しています。記録を読み返したり、状況によってはカンファレンスなどで検討しており、計画の見直しに活かされています。 | | |
| 23 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が行きたい場所や興味あることの把握に努め、行きたい場所には一緒に出かけたりして楽しみのある暮らしが出来るよう支援しています。 | | |
| 24 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の希望に沿って、通い慣れた病院、医師の診察がうけられるよう支援しています。また、協力医とはいつでも連絡がとれる体制が整っています。 | 希望に添って支援しており、かかりつけ医への受診は家族が対応し、必要に応じて利用者の状況を通院手帳で医師に伝えていきます。訪問診療を受けている方がいる他、訪問歯科診療の対応も可能です。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活の中での表情の変化、排泄時や入浴時の身体状況の変化に気付いた際は、すぐに看護師に報告・相談し指示を仰いでいます。 | | |
| 26 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 利用者が入院した際、医療機関や家族と連携を取り、情報交換を行っています。 | | |
| 27 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に終末期についての本人と家族の意向を聞くようにしています。状態変化時に主治医の説明と事業所の方針を理解いただいたうえで、意向に沿った支援をしています。 | 看取りの実績があり、職員研修も行って希望に添った支援ができるよう取り組んでいます。 | |
| 28 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の通常の状態把握に努めています。ヒヤリハット報告の再発防止策を職員間で検討し、事故を未然に防ぐよう努めています。急変時の対応についてはマニュアルに沿って対応出来るようにしています。 | | |
| 29 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な訓練時を実施し、災害発生時に対応できるように努めています。町内会長をはじめとする地域の方々や連絡先を交換し協力体制を築くことが出来ています。 | 地域間の協力体制ができています。運営推進会議で話し合っている他、掃き出し窓から外に出やすいように環境整備も行われています。 | 昨今の風水害の実情を踏まえ、代表を初めとして消防署、協力してくれる町内会の方々や具体的な訓練及び避難方法等の対策を協議されることを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者それぞれの認知症の症状に合わせ、混乱することのないよう、人格を尊重し敬意をはらった対応を心掛けています。 | 一人ひとりのこれまでの生活歴を理解し、その人に合わせて対応することを心がけています。同性介助には状況に応じて対応しています。 | |
| 31 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一緒に着替えの洋服を選んだり、季節や寒暖に合わせて衣類の調節の声掛けをしています。定期的な訪問理容の利用により整容の支援をしています。 | | |
| 32 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手作りならではの柔軟性を活かし、季節の食材や収穫した野菜を献立に入れて提供しています。盛り付けや食器洗いや食器拭き等のお手伝いをしてもらっています。 | 機能の低下により、食材の買い物や畑作業ができる利用者はいなくなりましたが、職員が育てた野菜を献立にあげて話題にし、楽しい食事場面になるよう取り組んでいます。 | |
| 33 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事・水分摂取量を表に記載し、必要量を摂取できるように状況を共有しています。一人ひとりの嗜好や状態を把握し、食事形態を工夫するなどして提供しています。 | | |
| 34 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に自立されている方は声掛けを行い、口腔ケアを実施しています。介助の方は、ガーゼを使用して口腔内の保清に努めています。夜間に義歯を預かり洗浄をしています。 | | |
| 35 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声掛けや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。 | 個々のパターンに応じて対応し、失敗の軽減に努めています。利用者の状態に合わせた排泄用品を使用することで費用負担に配慮し、家族の理解が得られるよう対応しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | トイレ後に排便の確認を行い把握に努め、便秘時には下剤を使用したり排便を実施しています。 食事内容や乳製品の提供、水分補給、適度な運動にて予防に取り組んでいます。 | | |
| 37 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 3日に1度、入浴日としているが、利用者の体調や状態に合わせて、入浴前にはバイタル測定を行い実施しています。拒否が強い場合は、担当職員の変更や入浴日の変更を行うなどの対応をしています。 | 利用者の気持ちに寄り添って柔軟に対応し、気持ち良く入浴できるよう支援しています。 | |
| 38 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中眠気の強い方には臥床を促したり休息をとるよう声掛けを行っています。居室の空調環境や寝具の調整に配慮し、安眠できるように支援しています。 | | |
| 39 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の既往歴や病状を把握し、処方薬の効能の理解に努めています。また処方薬の変更時には看護師より報告を受け、周知しています。 | | |
| 40 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器洗いや食器拭きなどを自発性を尊重しながら役割として手伝っていただいています。毎日の体操や合唱などのレクリエーション活動を通して気分転換や楽しみのある生活を支援しています。 | | |
| 41 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日には公園で外気浴を楽しむことがあります。花見や紅葉狩り等の季節を感じられる外出レクリエーションの機会を設け楽しんでいただいています。家族と外出など希望に沿った支援しています。 | 季節に合わせたドライブを企画して出かけている他、散歩は日課として行っており、家族と一緒に出かけられることも支援しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理できる利用者については、家族と相談の上、少額所持しています。買い物の際、所持金から支払うこともあります。 | | |
| 43 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が心地よく生活できる空間づくりを意識しています。共用空間の壁面には利用者が作成した折り紙や塗り絵を用いて季節感のある飾りつけをして、楽しんでもらっています。また、衛生面や温湿度管理にも気を配っています。 | 3ヶ所のトイレが適切に配置され、出入口も広く使い勝手の良い造りになっています。温度湿度を確認し、利用者と貼り絵を一緒に作って飾りつける等、季節感のある空間づくりがされています。 | |
| 44 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングの自席のほかに気の合った利用者同士でソファーでおしゃべりを楽しんだり、廊下を歩いておしゃべりしたり、その時々で思い思いに過ごせるようにしています。 | | |
| 45 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたものを持参していただいたり、家族の写真を飾ったり、本人が安心して過ごせるようにしています。居室の整理整頓を心がけ、快適な環境を作るようにしています。 | 職員のアイディアによる折り紙が出入り口を飾り、季節の変化を利用者に感じ取っていただいています。馴染みの物を持ち込み、自宅に居た時と同じように過ごせる配慮がされています。 | |
| 46 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、浴室、トイレ内に手すりがあり、安全に移動できるようにしています。認知症の症状に合わせ居室入り口に名前を掲示したり、トイレの場所を明記して、不安を軽減するようにしています。 | | |